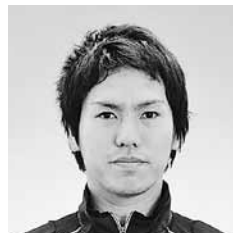

47期に次ぐ健闘ぶり

平成24年度大学入試結果より

49期生の受験結果は表にもみるように、たいへんよく健闘したといえます。東大の現役合格50人をはじめ、国公立大や医学部といった難関大の合格で、最高記録を出した47期に次ぐ結果を達成しました。しかし、担当した教員からすると、結果をみるまではいったいどうなるのかと不安に思うところもあったようです。

その辺りを中2から5年間、担任として49期生をずっと見てきた出口先生に聞いてみました。「以前から学力が不足しているという意識・焦燥感は教員もそして生徒自身も持っていましたが、高2の前半まではやはり行事優先でした」。それが、聖光祭、そして体育祭と大きな行事が終わって、「自分たちはやり切った」という生徒たち満足感が伝わってきたといいます。そこから「彼らは変わりました」。また、そのような生徒の雰囲気の変化をとらえ、学年として具体的な仕掛けもしたようです。高2の9月に高3用の模試を受験したり、センター試験当日に同日受験を経験させたりしたことがその例です。これで、具体的な目標のレベルを自分たち自身で実感できたようです。また、高2・高3と学年主任をつとめた小泉先生は、生徒に対して、「字を書け」「汗をかけ」と言い続けたそうです。具体的な行動に移せというメッセージでした。「素直・純粋だが、やるまでが遅い」という49期生にハッパをかけ続けました。そして、センター本番の初日、試験会場の入り口に応援で駆けつけた担任陣の熱い思いに、生徒たちも最後は存分に答えてくれたのではないでしょうか。

過去5年間主要大学合格者数（現役＋浪人）

		24年度 49期	23年度 48期	22年度 47期	21年度 46期	20年度 45期	19年度 44期
国公立	東　　大	65	60	65	49	44	48
	一　　橋	19	10	25	13	10	13
	東 工 大	14	21	18	5	14	13
	国公立医	27	15	25	21	12	15
	国公立合計	153	138	158	113	114	127
私立	慶　　応	138	135	169	150	135	125
	早 稲 田	168	142	189	138	136	151
	私立大合計	485	467	603	511	538	569
現役進学率％		73	71	77	63	71	70

クラブ表彰（平成23年10月～平成24年６月）

陸上部	神奈川県中学校選抜陸上競技大会 男子400m　第２位 神奈川県私立中学校陸上競技大会 男子400m　第１位（大会記録）	中３　清水　慶 中３　清水　慶
空手部	神奈川県高等学校空手道大会 男子団体組手　第５位	
硬式テニス部	神奈川県中学校新人テニス選手権大会 男子団体　３位（関東大会出場ベスト16）	
中学バスケットボール部	神奈川県私学大会　３位	
剣道部	中区剣道大会　準優勝 中区剣道大会　中学団体の部　３位	
柔道部	神奈川県私立中学校柔道大会団体の部　３位	
囲碁将棋部	第８回文部科学大臣杯中学校囲碁団体戦神奈川県予選　第３位（全国大会出場） 高校将棋夏季個人戦Ｂ級　優勝 第47回全国高校将棋選手権大会神奈川県予選 男子個人戦Ｃ級　優勝 第２位 第３位	高１　並木　航太 高１　小池　詢造 高１　坂本　春樹 高１　西川　雄太
中学野球部	中区秋季大会優勝	
水泳部	神奈川県私立中学校水泳競技大会 50M自由形　４位	中３　小野　佑起

個人表彰

第４回日本地学オリンピック最優秀賞(10月にアルゼンチンで開催される国際地学オリンピックの日本代表として出場予定)	高３　丸山　純平
日本数学オリンピック 予選合格メダル獲得 予選地区優勝	高３　外園　普夫 松本　卓也 高３　小澤　創 松崎　舜 渡邉　亮 高２　井上　恭輔
日本ジュニア数学オリンピック 予選地区優秀賞	中３　妹尾　聡 増木　亮太 松下　覚 中２　武藤　誠彦
高校化学グランプリ　関東支部奨励賞	高３　佐藤　謙
第20回国際高校生選抜書展「書の甲子園」入選	高３　猪苗代大路 内田　輝幸 輿石幸之介 田中　拓

10年ぶり関東大会出場

高校野球部

顧問　中村　朋矢（体育科教論）

平成23年度に行われた秋季高校軟式野球大会では、聖光学院は約10年ぶりに関東大会に出場することができました。今回は神奈川県主催ということで、例年より2校多い4校が関東大会に出場できるということもあり、そのチャンスをものにしたかたちとなりました。とはいえ、ここまでの道のりは決して楽なものではありませんでした。現在のこのチームは、勝ちに対する執着心が強く、常に勝つ為にはどうすれば良いのかを考え自分達で空き時間などにも進んで練習するようになり、それが今回の関東大会に出場することができた理由の一つですが、このチームになって始めの頃は、そのような姿勢ではありませんでした。初めての公式戦でも1回戦敗退で、実力差はもちろんありましたが、とても今から試合をするという雰囲気ではなく、負けるべくして負けた試合となりました。その試合終了直後に、選手達にある二つの選択肢を与えました。「試合での勝ち負けよりもみんなで楽しんで野球をするチームにするのか、それとも、辛くても厳しいことを言い合い、練習をし、勝ちにいくチームにするのか、どちらかを選べ」というものです。選手達の答えは全員一致で勝ちにいくチームになりたいという方でした。何度も確認はしましたが、もしかすると心の中ではただ楽しみたい選手もいたかもしれません。しかし、ここからチーム全体の勝ちに対する気持ちが変わったのは確かです。今思えばこのことが、今後選手達が活躍することとなる原点だったのかもしれません。すぐには変わりませんでしたが、明らかに動きや取り組みが良くなっていく選手達を見ていると、ついつい期待から厳しく言ってしまうことも増えましたが、その甲斐あって練習試合でも勝つことが多くなり、最終的に関東大会出場という結果に結びつきました。今でも忘れられないのが、関東大会出場を決めたあの瞬間です。試合に出ている選手だけでなく、試合に出られない選手まで泣いて喜んでいました。普通なら試合に出られず悔しさもあるところを、心から喜ぶ選手を見て、本当にみんなで築いた結果だったと実感し、感動しました。結局関東大会では1回戦負けとなり、自分達はまだまだという事を知る結果となりましたが、それと同時に自分達の可能性も知ることができた大会となりました。またあの何とも言えない感動を選手達と味わうため、現在も聖光学院高校野球部は次の大会に向けて練習をし、日々成長しています。また、関東大会や公式戦の際だけでなく、日頃の練習や練習試合などで応援や差し入れをしてくださる保護者の方々、OBの方々にも野球部一同心より感謝しています。何事も、応援をしてくださる人、サポートをしてくださる人がいなければ、決して充実した取り組みはできません。勝つことだけでなく、周りの方々から応援されるチーム作りをしていきたいと思っています。今後とも、聖光学院高校野球部を宜しくお願い致します。

高校生お笑い全国大会3位入賞

「本当の笑い」今後も追究

高校３年Ｃ組　岩永　圭

僕は、昨年の冬に高校生お笑い全国大会に出場し、3位に入賞した。だが、僕はお笑いを知っていくうちに、ある違和感を感じていた。より正確にいえば、「笑われる」ということへの違和感である。今回は、ここに至るまでの過程で、「笑い」について考えたことを話してみたい。

僕は中学の頃からよくバカなことをしていた。最初は、ちょっとしたことで笑われる程度だったが、そのうち顔中を洗濯バサミで挟み、「これは何かって？二十代の肌を取り戻すために始めたの。桃井かおりです」などとつぶやいたりして、僕のバカな行動は次第にエスカレートしていった。だんだんと自分が笑われていくうちに、他に笑われている人を見ると、ライバル心が生まれた。勝ちたいという気持ちが、僕に勉強をさせた。授業のノートを取らない僕が、バラエティ番組を見ながら、セリフを一語一句ノートに取っていた。

ライブなどにも足を運び、芸人の知り合いができ、「高校生向けの全国大会」という話を耳にした。一人で出る勇気がなくて、相方をつくって漫才という形で出た。決勝まで進み、5位という結果を残せたものの、あまり嬉しくはなかった。「全国5位の高校生漫才師」なんて肩書は、いまいちピンとこない。というか長い。

それから僕は、「笑い」の本質について考えるようになっていた。つまり、これまで目指してきた「笑われる」ためのお笑いではなく、人を「笑わせる」お笑いが必要だと感じていたのだ。「笑われる」ということは、形は違えど、結局、自分が道化となる他はない。「笑われる」だけでは「本当の笑い」にはならない。この気持ちが違和感となって、僕の頭にずっと残っていた。

そんな気持ちのまま、今回、高校2年の冬にまたこの大会が開かれた。僕は、この違和感を抱きながらも、何とかもがいてみた。そして3位だった。

僕はまだ満足していない。これからももっと「笑い」を磨いていきたい。聞き手を巻き込むような「本当の笑い」は、「笑われる」だけではない。「笑わせる」ことがしたい。

編集後記

今回の校友会報は以下の広報委員を中心に作成編集しました。

委員長　茅野　誠（９期）
委　員　中嶌　秀和（11期）
委　員　花家　徹（13期）
委　員　狩野　靖夫（14期）
委　員　高橋英一郎（14期）
委　員　伏見　靖（20期）
委　員　櫛田　恭平（27期）
委　員　加賀美博之（31期）

今回は記事が盛りだくさんで配置に苦労しました。学校行事や学生の活躍も皆様にお伝えしなければとの思いでいます。特に今回は、新校舎が一部完成し、授業がすでに行われているとのことで、その様子も是非ご覧いただきたいと思います。